

中部大学新英語カリキュラムの実施状況

(New English Curriculum in Chubu University)

吉川 寛(中部大学)

中部大学では平成4年から全面的なカリキュラムの改革に着手し、平成7年から新カリキュラムへの移行を実施した。特に、外国語関連のカリキュラムは大きく姿を変えた。現在、新カリキュラムは3期目を向かえているが、ここに至るまでの経過を説明し、様々な問題点を指摘したい。

1. 新旧外国語関連カリキュラムの比較

旧外国語カリキュラム

(工学部・経営情報学部)

区分	授業科目	毎週授業時間数(単位数×2)								備考	
		I		II		III		IV			学年
		1	2	3	4	5	6	7	8		学期
外国語科目	英語A1,A2	2	2							英語A,B 4単位は必修 英語C,D,E,Fから4単位必修	
	英語B1,B2	2	2								
	英語C1,C2			2	2						
	英語C1,C2			2	2						
	英語D1,D2			2	2						
	英語E1,E2			2	2						
	英語F1,F2			2	2						
	英語G1,G2					2	2				
	ドイツ語I--VI	2	2	2	2	2	2				
フランス語I--VI	2	2	2	2	2	2					

※Bの半数はLLで行い、C、D、Eはそれぞれ人文的、社会文化的、科学的内容とし、Fは英会話。(学生個々の希望により履修)

(国際関係学部)

区分	授業科目	毎週授業時間数(単位数×2)								備考	
		I		II		III		IV			学年
		1	2	3	4	5	6	7	8		学期
外語目	英語I-IV	8	8	4	4					同一言語で12単位必修	
	ドイツ語I-IV	8	8	4	4						
	フランス語I-IV	8	8	4	4						
専門科目	英語1,2			4	4	4	4			同一言語で8単位必修(上記と別言語)	
	ドイツ語1,2			4	4	4	4				
	フランス語1,2			4	4	4	4				
	ロシア語1,2			4	4	4	4				
	中国語1,2			4	4	4	4				
	スペイン語1,2			4	4	4	4				
	韓国語1,2			4	4	4	4				
	インドネシア語1,2			4	4	4	4				
	スウェーデン語1,2			4	4	4	4				
フィンランド語1,2			4	4	4	4					

9月22日(日) 事例研究第2室(1209)

新外国語カリキュラム

(全学共通)

区分	授業科目	毎週授業時間数(単位数×2)								備考
		I		II		III		IV		
		1	2	3	4	5	6	7	8	
基礎	プラクティカル英語	(2)	(2)							全学必修
外国語 科目	基礎英語A,B	2	2							工・経情は 外国語を4 単位必修 国際は英語 4単位必修 日本語は 留学生のみ
	英語表現法A,B,C,D	2	2	2	2					
	リーディングA,B,C,D	2	2	2	2					
	英会話A,B			2	2					
	上級英会話A,B,C,D			2	2	2	2			
	資格英語A,B	2	2							
	留学英語A,B	2	2							
	時事英語A,B			2	2					
	情報英語A,B			2	2					
	科学英語A,B,C,D			2	2	2	2			
	ビジネス英語A,B,C,D			2	2	2	2			
	入門ドイツ語I,II	2	2							
	総合ドイツ語A,B,C,D			2	2	2	2			
	入門フランス語I,II	2	2							
	総合フランス語A,B,C,D			2	2	2	2			
	入門中国語I,II	2	2							
	総合中国語A,B,C,D			2	2	2	2			
入門スペイン語I,II		2	2							
総合スペイン語A,B,C,D			2	2	2	2				
日本語I,II	8	8								
上級日本語A,B,C,D			2	2	2	2				

※プラクティカル英語は英会話クラスとLLクラスに分ける。基礎英語は有資格者のみ履修可能。
情報英語は語学メディア教室で行う。

(国際関係学部)

区分	授業科目	毎週授業時間数(単位数×2)								備考
		I		II		III		IV		
		1	2	3	4	5	6	7	8	
専門 科目	英語I-VI	6	6	4	4	4	4			14単位以上 を取得
	ドイツ語I-VI	6	6	4	4	4	4			
	フランス語I-VI	6	6	4	4	4	4			
	中国語I-VI	6	6	4	4	4	4			
	スペイン語I-VI	6	6	4	4	4	4			
	ロシア語I-IV			4	4	4	4			
	韓国語I-IV			4	4	4	4			
	インドネシア語I-IV			4	4	4	4			
	スリランカ語I-IV			4	4	4	4			
	フィリピン語I-IV			4	4	4	4			
	応用英語A,B,C,D			2	2	2	2			
	応用ドイツ語A,B,C,D			2	2	2	2			
	応用フランス語A,B,C,D			2	2	2	2			
	応用中国語A,B,C,D			2	2	2	2			
	応用スペイン語A,B,C,D			2	2	2	2			

※全学部に自由科目単位が30単位あり、一部の指定科目を除いて何でも履修することが可能。外国語関連科目は全科目とも全学に解放されている。

2. カリキュラム変更に伴う問題点

2.1 旧カリキュラムの問題点

- 1) 学生にとって選択の幅が狭く、ニーズに対応できない。
- 2) 英語8単位必修は学生への負担が大きすぎる。
- 3) やる気のある学生には8単位以上学習できるようにすべきだ。
- 4) CAIの導入等、新しい外国語教育を展開するにはカリキュラムが古い。
- 5) クラスで難易度が異なる。
- 6) 再履修が多い。
- 7) 補完教育が必要である。
- 8) 検定試験の導入を考慮すべき。
- 9) 一部適切でない教科書が選定される。
- 10) 全学生に”生きた英語”を学習させるべきだ。

2.2 新カリキュラムへの移行時の問題点

- 1) 学生の履修傾向への予測が難しい。
- 2) 学生の履修自由度(科目及び時間割)をどの程度確保するか。
- 3) 旧カリキュラムの学生の再履修をどのように対処するか。
- 4) 担当教員の振り分けをどうするか。
- 5) 施設設備は足りるのか。
- 6) シラバス、教科書選定をどうするか。

2.3 新カリキュラム実施後の問題点

- 1) 履修希望の偏重が予想以上に著しい。
- 2) 履修から授業開始までの期間が短いので調整が困難である。
- 3) 統一教科書に対する評価が一定でない。
- 4) 一部の学生の科目選択に自主性があまり感じられない。
- 5) 教員の自由裁量度が狭められる。

3. 評価とまとめ

- 1) 学生の反応は概ね良好である。
- 2) 再履修が半減した。
- 3) 教員間の協力、連帯が促進された。
- 4) 不確定要素が増し、教務関連の仕事が増した。

中部大学での外国語関連新カリキュラムへの移行は比較的順調で、実施後の評価も良いと言える。いずれにしても、カリキュラム変更をスムーズに行うには、英語担当の教員だけでは勿論行える訳はなく、他の外国語担当の教員のみならず多くの教員の理解と協力を、また、施設の面を始め大学当局の協力を必要とすることは言うまでもない。限られた人手と時間で学生のニーズに合った教育環境を提供するのは難しいことではある。しかし、大学英語教育が現在置かれた状況から見て一層の努力が必要とされよう。

以上